

項目	入力欄
科目名	専門演習(社会学原論)
教員名	加藤真義
授業概要とねらい	本年度の演習では、【1】社会学理論の基本を学び、卒業研究へむけての準備をおこない、あわせて【2】「東日本大震災」について社会学者が何を語ってきたのかを検討する、という2点をテーマとする。【1】については、「社会学原論」のさらなる応用展開となる。【2】については、東北から日本社会の現状を考えるひとつの重要なアプローチとして位置づけている。日本学術会議・社会学委員会の提言や基本となる論文などをとりあげる。
望ましい水準	(1) (本演習で対象とする)社会学の基本的な概念と思考法を理解する。【理解力】(2)それらの概念や思考法を、具体的なテーマや題材の考察に応用できる。【応用力】(3)必要な先行研究や資料を収集することができる。【情報収集力】(4)自分の考察の成果を、演習の場で、他の参加者にたいして表現することができる。【表現力】(5)演習の場で、報告をもとに、他の参加者と意見交換、討議をおこなうことができる。【コミュニケーション力】
授業計画	前期は、共通のテキストの輪読を中心に進める。レポーターが、テキストの要約、補足報告(自分で他の文献や資料に即して調べたこと、確認したことについての報告)、疑問点・論点を提示をし、それをもとに討議を行なう。5月(予定)には、4年生の卒論構想発表の機会をも設ける。第1回:ガイダンス(日程の確認。役割分担。文献・資料検索の仕方、レポートの方法について等。)第2回:文献レポート第3~4回:卒論構想発表第5~14回:文献レポート第15回:まとめ 後期は、3年生の卒論先行研究のレポートをも組み込みつつ、前期同様、報告と討議を行なう。第1回ガイダンス 第2~14回文献レポートと卒論報告 第15回まとめ
教材・教科書	【候補】 ・盛山和夫他編2017『社会学入門』ミネルヴァ書房 ・長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志編2007『社会学-近代・自己・再帰性』有斐閣 ・日本学術会議社会学委員会「多様で持続可能な復興を実現するために-政策課題と社会学の果たすべき役割-」平成29(2017)年9月15日、など。
参考図書	適宜指示する。
参考URL	
授業以外の学習	・たくさん学習してください。
成績評価の方法	・出席状況、報告、討論への寄与などを総合的に評価する。
成績評価の基準	A:すべての項目において高い水準に達している。B:一部の項目において高い水準に達している。C:すべての項目において望ましい水準に達している。D:一部の項目において望ましい水準に達していない。F:多くの項目において望ましい水準に達していない。
オフィスアワー	とくに定めない。必要があれば適宜面談に応ずる。mkato@ads.fukushima-u.ac.jpまで連絡を。
留意点・注意事項	最終的に履修が決まったら、上記アドレスまで連絡をください。
その他	
ディプロマポリシー大区分1	行政政策学類のディプロマポリシー
ディプロマポリシー小区分1	研究分野の知識(行政政策学類)
ディプロマポリシー大区分2	行政政策学類のディプロマポリシー
ディプロマポリシー小区分2	問題発見・調査・解読能力(行政政策学類)
ディプロマポリシー大区分3	行政政策学類のディプロマポリシー
ディプロマポリシー小区分3	表現力・コミュニケーション能力(行政政策学類)
ディプロマポリシー大区分4	社会と文化専攻のディプロマポリシー
ディプロマポリシー小区分4	社会・文化研究にかかわる学際的および専門的知識(社会と文化専攻)
ディプロマポリシー大区分5	
ディプロマポリシー小区分5	
ディプロマポリシー大区分6	
ディプロマポリシー小区分6	
ディプロマポリシー大区分7	
ディプロマポリシー小区分7	
ディプロマポリシー大区分8	
ディプロマポリシー小区分8	
ディプロマポリシー大区分9	
ディプロマポリシー小区分9	
ディプロマポリシー大区分10	
ディプロマポリシー小区分10	
ディプロマポリシーその他	